



2024年12月26日
国立大学法人東京藝術大学

東京藝大×JR 東日本 上野駅ギャラリー「CREATIVE HUB UENO “es”」
グループ展「LOST⇔FOUND 変わる視点、交わる視線」開催のお知らせ



この度、JR 上野駅構内のギャラリー「CREATIVE HUB UENO “es”」（2024年4月開設）では、グループ展「LOST⇔FOUND 変わる視点、交わる視線」を2025年1月21日（火）から2025年2月16日（日）まで開催します。

「LOST⇔FOUND 変わる視点、交わる視線」では、CREATIVE HUB UENO “es”の前身が交番だったという経緯から“忘れもの”に着目しました。忘れもの(LOST)=忘れ去られていくものと捉え、そのような宿命にある社会的マイノリティや弱者の声にスポットライトを当て新たな視点を獲得すること(FOUND)を趣旨とした企画です。

本展は、東京藝術大学が開設する「東京藝大アーツプロジェクト実習」の実践的授業として、8名の学生がプロジェクトチームを組み、4週に渡りリレー形式で展覧会を開催します。CREATIVE HUB UENO “es”の空間を通じて時代を反映するメッセージを発信していきます。

【参加アーティスト】

熊井戸啓貴、田中和昌、小澤陣、佐藤れな、窪田望、海老名楓、佐藤利香、Koki Sakakihara

【展示スケジュール】 ※内容・展示期間は変更になる可能性があります。

1/21(火)ー1/26(日) | 熊井戸啓貴 田中和昌 小澤陣「祖父母のわすれもの」

1/28(火)ー2/2(日) | 佐藤れな「Re:line 無くしたもののカタチ、思い出してみる」

2/4(火)ー2/9(日) | 窪田望「hand sketch, pencil drawing」

2/11(火)ー2/16(日) | 海老名楓 佐藤利香「交差する視点たち — 上野から見る異質と共存」

常設: 1/21(火)ー2/16(日) | Koki Sakakihara 「長ネギが何故に? 渡せ! いや何故に」

【開催概要】

□ 展示会名: 「LOST⇔FOUND 変わる視点、交わる視線」

□ 会期: 2025年1月21日(火) ~ 2025年2月16日(日)

※会期中にイベントを予定しています。詳細は後日ウェブサイトでご案内します。

□ 休場: 月曜定休(祝日の場合は翌日に振替)

□ 時間: 11:00~19:00(最終入場 18:45) □ 入場: 無料

□ ウェブサイト: <https://ueno-es.jp/>

□ 会場: CREATIVE HUB UENO “es” 東京都台東区上野 7-1-1 (上野駅浅草口付近)

■ 展示紹介

【1/21(火)ー1/26(日)】 熊井戸啓貴 田中和昌 小澤陣「祖父母のわすれもの」

出展者の祖父母の遺品を「故人の忘れ物」として解釈し、その遺品たちの過去の記憶を本パフォーマンスによって清め、新たな持ち主へ届けることを趣旨としています。“遺品整理”という行為を通して我々は物の精神的側面と物質的側面に着目しました。持主の姿は見えなくても生前使っていた遺品は故人との記憶を想起させます。“遺品整理”は「片づける」という言葉で片づけられない故人との思い出と向き合い、心の整理を行う儀式なのかもしれません。また、物の寿命と持主の寿命が一致しないからこそ残された者たちによって遺された物を整理していかねばなりません。物が先に壊れば直して使ったり保存したりできますが、持主を先に失った物はどこに向かえばいいのでしょうか? そういった物に宿る精神性と物質的寿命に折り合いをつけるために「物に宿る記憶を共有しながら新たな持主(里親)を見つけるパフォーマンス」を行います。



熊井戸啓貴 Hirotaka Kumaido

國學院大学青葉雅楽会を経て、元宮内庁式部職楽部主席楽長 安齋省吾氏などに雅楽を師事。日本雅楽会会員、東京藝術大学音楽学部邦楽科雅楽専攻在籍。主な出演歴、テレビ朝日系列「題名のない音楽会」、NHK 大河ドラマ「光る君へ」等。



田中和昌 Kazumasa Tanaka

東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻壁画研究分野在籍。大学では市民や鑑賞者との協同によって一つの体験を作り出す手法について研究中。今回の作品も参加者との協働によって「落とし物」にまつわる思考体験になることを念頭に置き制作している。



小澤陣 Jin Ozawa

1998年大阪府生まれ。株式会社アートフロントギャラリーで奥能登国際芸術祭のアシスタントマネージャーとして従事。2024年に退社し現在に至る。関西学院大学総合政策学部卒業。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程先端芸術表現専攻在籍。

【このプレスリリースのお問合せ】 CREATIVE HUB UENO “es” 運営事務局

東京都千代田区東神田 1丁目 13-3 商品部ビル 5階

電話: 03-5809-1653 メール: info@ueno-es.jp (担当: 穴戸・森田)

【1/28(火)–2/2(日)】 佐藤れな 《Re : line 無くしたもののカタチ、思い出してみる》


落とし物を拾った時、そのものを見て物語を考える。
 誰の足跡も付いていない綺麗なハンカチを見て、持ち主が近くにいるのでは無いかと考えたり、ワイヤレスイヤホンの片方だけが落ちているのを見かけて、あーきっと持ち主は絶望しているだろうなと勝手に考える。

私たちはただ、落とされたものの輪郭線を見て、その物に秘められた物語をあれこれ考えてみるだけ。

落とし物の内側に意味や効果を求めようにも、肩透かしを食らうのみである。

そうは言っても、所有者には全てわかっているわけで、それこそが落とし物の魅力であると感じている。今回の展示では、落とし物についてのアンケート資料を元に「落とし物の輪郭線」だけを取り出す。

落とし物が人の手を離れ、ただの物として存在している状態を表面化(表現)する。



佐藤れな Rena Sato

東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻壁画研究分野在籍。

人間どうしのテリトリーや個人の安心できる領域について興味を持ち制作している。

【2/4(火)–2/9(日)】 窪田望 《hand sketch, pencil drawing》


生成 AI で画像を作成する際、多くの方は 5 本指になっていない画像を不用品として捨ててしまう。AI エンジニアもまた、このトピックスに対し、プログラミング能力や莫大な GPU、電力を使い、AI が 5 本の指を描写できるようになるように「進化」のために奮闘している。しかし、そこには 3 本指、多指症などのマイノリティーの暮らしが一切無視されており、「進化」の影に排斥されている。

本作では、AI が出力した 5 本指になっていない画像をドローイングするところから始めた。

AI は明確な数字で指の確からしさを出力するが、私たちにとって「確からしい指」とはなんなのだろうか。正常とはどこからどこまでなのか。何を正常として AI に教えて行くべきか。この問いは AI 開発者はもちろん、AI 技術と無関係と思い込んでいる人にも問われている。明確に答えられない者はすべて、この無自覚な暴力性の共犯者であるかもしれない。



窪田望 Nozomu Kubota

東京藝術大学大学院美術研究科修士課程先端芸術表現専攻在籍。

経営者、AI 開発者、発明家、YouTuber、美術家とジャンルを横断しながら、表現を行う。山形県西川町では消えつつある方言を AI に学習させるなど、メディアテクノロジーとコンセプチュアルな手法を駆使し人間と AI というありふれた二項対立からの脱構築の実践を試みる。

【2/11(火)ー2/16(日)】海老名楓 佐藤利香「交差する視点たち — 上野から見る異質と共存」


上野には、日雇い労働者、ホームレス、観光客、文化施設の利用者、商店街の人々など、さまざまなバックグラウンドを持つ人々が集う。文化的生活が混沌としたこのまちから、他のまちや人にも開いていけそうな、「異質さを共有する場」をつくれなにかと考えた。異なる視点や背景を持つ人々が交わる機会を提供し、自身の位置や価値観を問い直すための場づくりを目指す。

海老名はホームレスの実態や声から、公共空間の異質さを様々な人に伝える。佐藤はあらゆる立場の記憶を交えながら、人の異質さを共有しよう。今まで素通りしてきた人や場所を視野に捉えるきっかけになるかもしれない。



海老名楓 Kaede Ebina

東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻壁画研究分野在籍。

公共空間や文化芸術が「誰のものか」という問いを提起し、共生社会の可能性を探ることを目指す。



佐藤利香 Rika Sato

東京藝術大学大学院美術研究科修士課程先端芸術表現専攻在籍。芸術の現場に必要なコミュニケーションについて考えながら、アートマネジメントの実践と研究を行う。

【1/21(火)ー2/16(日)】Koki Sakakihara 《長ネギが何故に？渡せ！いや何故に》


「語呂ちゃん」という4行の韻で一つの作品にするプロジェクトを行っており、現在10000個作成している。今回、異質な落としもの「長ネギ」とそれにまつわるストーリーを起点に、一つ語呂ちゃんを作成し、ミニチュアの長ネギのレプリカと共に展示する。



Koki Sakakihara

He wanna be a good tennis player. 彼は最高の大衆音楽、簡単に言ってしまうとヒットチャートの1位を獲る音楽を作るために創作活動を行う。現在、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程グローバルアートプラクティス専攻に在籍。クマ財団第8期生。

CREATIVE HUB UENO “es”とは

東京藝大とJR東日本の包括連携協定の第一弾として、上野駅の交番跡地をリノベーションし誕生したギャラリーです。

東京藝大の学生・卒業生の若手アーティストの作品を展示し、時代を映し出す芸術作品に触れ合う機会をつくれます。また、上野駅全体を美術館に見立て、駅構内に点在するアート作品等をご案内し、多様な文化交流の場を創出していきます。ギャラリー名の“es”（エス）とは、心理学用語で「無意識の領域」を指し、多様な欲望やエネルギーを内在し、小さくとも無限の表現領域を体現できるスペースを目指して命名しました。



【このプレスリリースのお問合せ】CREATIVE HUB UENO “es” 運営事務局

東京都千代田区東神田1丁目13-3 商品部ビル5階

電話：03-5809-1653 メール：info@ueno-es.jp (担当：穴戸・森田)